

外国語教師教育の枠組としての「日本語教育人材の養成・研修の在り方」の特徴 —European Profiling Gridとの比較をもとに—

保坂敏子・島田めぐみ(日本大学) 杉田千里・藤光由子(国際交流基金)
増田朋子(神奈川大学) 本廣田鶴子(大阪大学研究生) 谷部弘子(東京学芸大学)

本研究はJSPS 科学研究費・基盤(C)20K00705の助成を受けたものである。

1. 研究の背景と目的

- @日本
- 2019.4 出入国管理法の改正
 - 2019.6 「日本語教育の推進に関する法律」成立
 - 2018.3 「日本語教育人材の養成・研修の在り方について(報告)」
 - 2019.3 「同上 改訂版(以下,2019報告)」
 - 2019~ 日本語教育人材養成・研修カリキュラム等開発事業
 - 2020~ 日本語教育人材の研修プログラム普及事業
- vs.
- @ヨーロッパ
- 2011~2013.10 European Profiling Grid(以下,EPG) 他

日本語教師教育の
国家レベル指針

言語教師の能力開発の枠組
(ヨーロッパ域内)

複数言語教師に共通の枠組み「EPG」から見た時、
一言語に特化した「2019報告」の特徴や課題は？

2. 研究の方法

- 分析の対象**
- 「日本語教育人材の養成・研修の在り方について(報告)改訂版」
文化審議会国語分科会 平成31年(2019年)3月4日
https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/kokugo/kokugo/kokugo_70/pdf/r1414272_04.pdf (2021年12月23日閲覧)
 - European Profiling Grid(EPG)
EPG project team (Brian North, Galya Mateva, Richard Rossner)
2011~2013.10
<https://www.eaquals.org/our-expertise/teacher-development/the-european-profiling-grid/> (2021年12月23日閲覧)
- 分析の方法: 比較分析**
- 比較: 全体構成/資質・能力のカテゴリー/内容記述文
 - 検討: 資質・能力の違い, その背景, 「2019年報告」の特徴・意義・課題

参考文献:

宇佐美洋(2019). 日本語教育人材の「資質・能力」育成に関わる諸概念を再考する 言語・情報・テキスト, 26, 13-26.
来嶋洋美(2021). 外国語教師の継続的能力開発(CPD)の枠組み 日本語教育, 179, 93-108.
守時なざさ(2015). 「日本語教育のための教員養成について」再考—諸外国における外国語としての自国語教師教員養成の教育内容との比較から— ヨーロッパ日本語教育, 19, 233-238.
義永美央子(2020). 日本語教師の資質・能力観の変遷と今日的課題 社会言語科学, 23(1), 21-36.

3. 分析の結果

「2019年報告」

<目的> 日本語教育人材の様々な活動分野や役割に応じた資質・能力や教育内容を示すため, 日本語教育人材を活動分野, 役割, 段階別に整理すること

表1 「2019年報告」が示す日本語教育人材の役割・段階・活動分野

役割	段階	活動分野
日本語教師	養成	
	初任	生活者としての外国人 留学生 児童生徒等 修了者 難民等 海外
	中堅	
日本語教育 コーディネーター		生活者としての外国人(地域日本語教育 コーディネーター) 日本語学校(留学生)(主任教員)
日本語学習支援者		

- ★特徴★
- 日本語教育人材11類型 = 「教師」だけではない。
 - 初任段階で活動分野が細分化(6分野)

表2 生活者に対する日本語教師(初任)の資質・能力と内容記述文の例

知識	技能	態度
<p>【1「生活者としての外国人」に対する教育実践の前提となる知識】</p> <p>(1)地域の外国人の背景・状況・特徴等について正しく理解している。</p> <p>【2日本語の教授に関する知識】</p> <p>(4)「生活者としての外国人」に対する日本語教育の目的, 内容, 方法についても知識を持っている。</p>	<p>【1教育実践のための技能】</p> <p>(2)ニーズ分析, レベルチェックが適切に実施できる。</p> <p>【2成長する日本語教師になるための技能】</p> <p>(5)自らの指導に関し, 分析的に振り返り〜〜協働して指導の改善がてきる。</p> <p>【3社会とつながる力を育てる技能】</p> <p>(7)学習者が地域社会とつながり, ネットワークを構築する力を育てる教育実践を行うことができる。</p>	<p>【1言語教育者としての態度】</p> <p>(1)学習者の多様な背景, ニーズ, 学習環境を的確に捉え, その個別性と学びに向き合うとする。</p> <p>【2学習者に対する態度】</p> <p>(2)学習者の背景・文化・日本における生活状況を理解しようとする。</p> <p>【3文化多様性・社会性に対する態度】</p> <p>(4)学習者が人とつながり, ネットワークを構築しようとする力を育てようとする。</p>

- ★特徴★
- 資質・能力を「知識・技能・態度」で分類 & 11種類の資質・能力(細分化) + 「日本語人材に共通」「専門家として日本語教師に共通」の資質・能力
 - 3領域5区分の教育内容とカリキュラムが提示

「2019年報告」 → 言語教師の資質・能力が細分化&縦割り(初任)課題
背景: 多様化する日本語教育現場に対応 = 現場のニーズ・即戦力となる資質・能力

「EPG」

<目的> どの言語を教えているかに関わらず, 言語教師が自らの専門性を高めることをサポートすること

表3 EPGの資質・能力のメインカテゴリーとサブカテゴリー

メイン	研修と資格	主要な教育能力	実践有効化能力	専門職性
サブ	<ul style="list-style-type: none"> 言語の習熟度 教育と訓練 教育活動の評価 教育経験 	<ul style="list-style-type: none"> 教授法(知識と技能) 評価 授業とコースの計画 インタラクション, 授業運営, モニタリング 	<ul style="list-style-type: none"> 異文化間能力 言語意識 デジタルメディア 	<ul style="list-style-type: none"> 専門的行動 運営・管理

表4 主要な教育能力の「評価」に関する各グリッドの記述文の例

発達段階1		発達段階2		発達段階3	
1.1	1.2	2.1	2.2	3.1	3.2
教科書のユニットテストを実施し, 修了後に点数をつけることができる	教材で指示されていた場合, 進捗テストを実施し, 点数をつけることができる	定期テストを実施できる	定期評価課題を選択・実施し, 言語および技能における学習者の進歩を確認できる	進捗評価の教材とタスクが設定できる	どのレベルでもすべての言語スキルおよび言語知識のための評価を開発できる

- ★特徴★
- 言語教師の能力を6つの発達段階に分けている。(初心者~熟達者)
 - 言語に関わらず, 各教師の専門的な能力開発のサポートを目指している。
 - 資質・能力を内容領域毎にわけてカテゴリー化している。
→ 教室内で発揮される教育に関わる資質・能力を重視

<言語教師育成観>

- 教師は, 参加した研修, 自分の個人的なキャリア経験, 興味に基づいて自らを成長させていく。
- 教師の能力開発において重要かつ有益なことは, 職業上の経験, 特に, 日々の授業を振り返ることである。
→ 記述文「~できる」=自己評価可能
→ EPGの電子化(e-Gridサイト)=継続的な学び, 自己成長の省察可能なツール = 自律的な学習環境

4. 考察

社会的要請重視 = 到達目標提示
教師個人の自律的・継続的成長の支援はできない? = 成長のプロセス非提示